

歴史探訪

クラブ! 其の121

History Inquiry Club



文化財課 ☎23局 3635
FAX 22局 3811

汐川改修事業と仲井式次郎

汐川と青津川^{あおづ}が交わる場所（神戸町）に、2基の大きな石碑が建っています。この石碑の一つには「汐川改修之碑」、もう一つには「土地改良事業功労者 仲井式次郎先生彰徳碑」と刻まれています。

仲井式次郎は、明治2年、現在の西神戸町に生まれました。神戸小学校に勤務し、退職後に地元の区長、村会議員、渥美郡会議員、大正10年（昭和4年）には神戸村の村長を務めています。これまでの経歴を見ると、



▲仲井式次郎(神戸市民館提供)

地域の典型的な名士としての道を順調に歩んできたように思えます。

式次郎が村長を務めたころの神戸村は、耕地も少なく、決して裕福で恵まれた村ではありませんでした。その上、神戸村内を流れる汐川やその支流は、川幅が狭く曲がりくねり、一旦雨が続きと水は堤防から溢れ、周辺は水浸しとなりました。また高潮になると耕地に海水が流れ込み、塩害にも悩まされ、作物にも大きな被害を与えました。また台地は水が不足し、低い土地は水はけが悪く、腰までぬかるむ深田で、農道もなく、耕作や収穫のための出入りも不便でした。働いても繰り返し起こる災害によって田畑は荒地となり、神戸村の人たちは、苦しみ希望を失っていました。日々の生活は荒れるばかりで、もはや限界に達していました。



▲改修前の汐川(点線)

式次郎はこのことに深く心を痛め、汐川沿岸耕地整理組合を作り、働いただけの福になる畑を整備するために、汐川の改修と耕地整理の事業を進める決意をしました。しかし組合員はなかなか「うん」と言いません。ここから式次郎の苦難が始まりました。

式次郎は、説得するために20回以上の会議を重ねました。反対の理由は「工事費を捻出する余裕がない」「工事の間は作物が作れない」「新しい道路・水路によって耕作地の面積が減る」という心配でした。反対意見だけでなく、事業は複数の町村にまたがるため、それぞれの事情が複雑だったことも障害となりました。

意を決した式次郎は、代表者の前で、事業を断念し、自らの命を捧げる決意を涙ながらに語りました。参加した全ての人が、式次郎の思いに心は動かされ、26回目の最後の会議で、ついに全員の同意を得ることができました。しかし残念なことに、

式次郎はここに深く心を痛め、汐川沿岸耕地整理組合を作り、働いただけの福になる畑を整備するために、汐川の改修と耕地整理の事業を進める決意をしました。しかし組合員はなかなか「うん」と言いません。ここから式次郎の苦難が始まりました。

式次郎は病に侵され、事業の完成を待たずに昭和6年に亡くなりました。

式次郎が願った汐川の改修と耕地整理は、昭和2年に工事が始まり、下流の村もそれに連動して耕地整理事業を進め、現在のような使いやすい耕地の姿となりました。

昭和32年3月、式次郎の功績を称え、顕彰碑が建立されました。朝夕、太陽の光を浴びて輝くその存在感は圧倒的です。その姿は、まるで式次郎が汐川の流れを見守っているかのようです。(増山)



▲仲井式次郎顕彰碑

今月の「表紙」は、例年よりも早く種用の花が咲き始めました。

これは、東日本大震災の影響で、切り花の価格が下落し、出荷を見合わせたためとのことでした。きれいな花を見ると、笑顔になる方も多くは、たくさんさんの笑顔を咲かせるための、大切な種。真心込めて育てられています。(〇)

【表紙の写真】スイートピーハウス(日町町)